



横山大観《長江の朝》
—「日本画のてびき 近代から現代へ」より—

- 前田家の茶道具と名物裂【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 金沢ゆかりの茶道具【古美術】
- 使う美、飾りの美 ～明治の工芸～【近現代工芸】
- 日本画のてびき 近代から現代へ【近現代絵画】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 2月の企画展示室
- 学芸室の人々
- 2月の行事予定
- 〔参加者募集！〕バスツアー
- アラカルト ただいま展示中

金沢ゆかりの茶道具

1月27日(木)～2月20日(日) 会期中無休

近代の数寄者のひとり高橋箒庵の『東都茶会記』には、明治末から大正期に各地で見た茶道具の記録や感想、その土地に関する文化について記述されています。単なる記録というより、優れた随筆です。明治四十五年五月二十一日から二十四日には金沢に滞在し、「終日晝画什器の宝山に入り浸り、目の盆と正月とを一所に併せて殆ど眩暈するばかりに貪観したるは、眼福の百年目とも云う可きか」と記しています。

金沢の土地柄について、加賀藩前田家の影響もあって、士族だけでなく一般平民まで「余裕ある者は茶事を嗜み、謡曲を好み、書画、骨董を玩んで優美雅雅悠容迫らざる趣あり」と触れ、「維新後三都の名品は往々加州人の手に渡」つたと紹介します。

同二十三日に訪れたのが、山川庄太郎宅です。奥座

敷の床の掛軸の前には、「仁清雉の香炉」が飾られていました。山川は「天性骨董好き」で、夜になると茶釜の松風を聞きながら、茶器を愛玩するのが常だったといい、案内された蔵器陳列室では、さまざまな香合と茶碗、花入、硯箱が並んでいたと、その感想を述べています。

特に「香合は当家の独擅場」と述べ、中でも「阿蘭陀白雁の香合」は「高名天下に隠れなきものになり」とし、「雁に尤も難物なる首の格好優れて好きこそ有り難けれ」と絶賛します。

箒庵は成巽閣も訪れ、松岡家所蔵の名品も鑑賞しますが、「青井戸茶碗銘宝珠庵」は「見るに及ばざりし」と残念な気持ちで吐露し、金沢を去るのでした。



石川県指定文化財《青井戸茶碗 銘宝樹庵》



《和蘭陀白雁香合》

前田家の茶道具と名物裂

1月27日(木)～2月20日(日) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館では「前田家の茶道具と名物裂」というテーマで、三十五点を紹介します。今号では、そのうち四点を紹介いたします。

◇《葡萄図》松花堂昭乗 玉室宗珀

近衛信尹・本阿弥光悦とともに寛永の三筆と称される松花堂昭乗(一五八四～一六三九)が葡萄を描き、大徳寺一四七世で紫衣事件でも知られる玉室宗珀(一五七二～一六四二)が賛を寄せた一幅です。昭乗は狩野山楽に絵を学びますが、本図では牧谿のような没骨法を用いて、みずみずしく葡萄を描きました。宗珀は、大徳寺塔頭芳春院の開山となった人です。

◇《玳皮盞天目茶碗(梅花天目)》

中国の南宋時代に吉州窯で生産された茶碗の一種を「玳皮盞」といい、鼈甲のような斑模様の特徴です。鉄釉と灰釉の二種掛けによって表現されるもので、

そのうち梅花のような模様が十以上施されたものを「梅花天目」と呼びます。

◇《名物 尼崎台》

尼崎に伝来したとの由来からこの名がついた天目台です。朱漆で、台の内側にムカデのような印があります。

◇《茶壺銘春の日》

やわらかい釉の調子から「春の日」と銘がついています。茶壺は「葉茶壺」とも称されるように、抹茶をつくるために挽く前の葉茶をたくわえました。十六世紀末期に茶壺の鑑賞が流行し、ルソン島から大量の壺が輸入されたことから、以来輸入茶壺は「呂宋茶壺」と総称されるようになりました。

本特集では、その他久しぶりの公開となる清水裂など珍しい名物裂もあわせて紹介します。

近現代絵画(第6展示室)

日本画のてびき —近代から現代へ—

1月27日(木)~2月20日(日) 会期中無休

「日本画とは、なんぞ?」こんな素朴な疑問にお答えする、特集展示の第二弾です。

「日本画」という語の初出は、フェノロサが明治五年に行った講演『美術真説』であったことは割と知られた話ですが、アメリカ人であったフェノロサは、当然英語で講演しており、「日本画」は「Japanese painting」の訳語です。明治期にナシヨナリズムの象徴でもあった「日本画」の語源が、実は英語であったことに「日本画」の運命に皮肉さえ感じます。今回はフェノロサが『美術真説』で述べた、「洋画に対する日本画の優位性」について、近代有名作家の実作品を通して見てみます。

また、日本画の大きな特質として、その形態について取り上げます。現代の日本画の多くが、頑丈な木製

パネルに和紙を張り込み、額装してあります。これは日本の生活様式の近代化や公募展への対応など、必要に迫られてのことですが、扱いがなかなか大変です。展覧会出品の大作などは、重量も大きさも嵩張り、制作した作家本人でも保管場所に困るほど。その点、伝統的な軸装や巻物、屏風装などは取り回しが楽で、小さく保管することが可能です。昔の人の知恵が、いかに合理的であったかを実感します。

さらに現代日本画が辿った昭和三十年代の抽象化についても、比較展示を通してご覧いただけます。

前回は第6展示室の全てを使って、日本画について総括的に紹介しましたが、今回はテーマを上記の三点に絞ります。第6展示室の約三分の二を使っての「日本画のてびき」をお楽しみください。



安嶋雨晶《信濃追分》

近現代工芸(第5展示室)

使う美、飾りの美 ~明治の工芸~

1月27日(木)~2月20日(日) 会期中無休

本特集では、「使う美、飾りの美」と題して、明治時代につくられた工芸作品を紹介しています。明治時代の工芸の特徴の一つは、「超絶技巧」と呼ばれるような、細密で精巧な装飾が施されている点にあります。これらは主に欧米諸国への輸出を目的としているので、使用は可能ですが、どちらかといえば、室内装飾として使われることを意識して制作されています。

九谷庄三の《色絵金彩花鳥文大香炉》は、香炉として使用するというよりは、室内装飾としての用途に重きを置いているといえるでしょう。本作は庄三の代表作で、蓋には宝珠形の摘み、その周りを龍が巡っています。身は胴が大きく張り出した豪快な作品で

す。色彩は全体に牡丹唐草文を中心とした赤地金襴手となっています。世界に輸出された「ジャパネクタニ」の代表的な作品といえるでしょう。

庄三は江戸時代後半から明治初年に活躍した陶工です。器面に窓枠をとり、洋絵具による中間色を用いて、花鳥・山水・人物などの色絵を施し、地文様は赤絵と金彩による「彩色金襴技法」を用いた「庄三風」と呼ばれる豪華絢爛な作品をつくりました。これらは当時の欧米の趣向と合致するもので、輸出陶磁器の主流となる製品となりました。

本特集では明治時代につくられた陶芸・漆芸・金工などを展示します。名工達による匠の技術をご堪能ください。



九谷庄三《色絵金彩花鳥文大香炉》

近現代絵画・彫刻(第3・4展示室)

優品選

1月27日(木)~2月20日(日) 会期中無休

2月の企画展示室

厳しい寒さが続いています。冬や春を意識したテーマ等の作品をお楽しみください。

第3展示室では冬の景色や人々を描いた油彩画を中心に展示します。「東雲」とは、夜明けや暁光を受けて彩られること。田井淳《東雲》は、男女が抱き合う小舟の浮かぶ湖が暁の光に照らされて美しく輝く様子を、青と緑を基調に微妙なニュアンスに富む色彩で描いた、幻想的な作品です。愛にあふれた本作を見ると、心が温まります。版画からは、東山魁夷の《海山十題》をご紹介します。「唐招提寺御影堂障壁画」は東山魁夷の十年もの歳月をかけて完成させた作品です。展示作品はその中の《山雲》《濤声》の図柄をもとに、制作された作品です。日本の理想的な自然としての海と山の姿をとらえた作品をご覧ください。

第4展示室では引き続き、子供・若人をテーマとして展示しております。今回は追加する作品から山瀬晋吾《波乗り》を紹介いたします。うねる波の上に乗っているのは、波とたわむれる少女。波の表現、少女のポーズともに斬新な構成です。さわやかな雰囲気の中に、すがすがしく清廉な少年少女をつくり続ける作者における、代表作の一つです。

第6展示室では、三分の二を使用して「日本画のてびき」を開催している関係で、わずかですが「春を待つ心」をテーマに現代日本画を展示します。前回の小特集から引き続きで曲子光男《春雪》、その長男の曲子明良による《春を待つ》、そして平桜和正《待春の浜》の三点が、春を待ちわびる北国の心情を謳いあげます。

第7・8・9展示室 第32回 志賀町を描く美術展金沢展

1月27日(木)~1月30日(日)会期中無休

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて生まれしてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品まで約一二〇点の洋画・日本画・水墨画・水彩画などの作品を、富来展と金沢展の二会場で展示しております。

◆入場無料

◆連絡先／志賀町生涯学習センター

羽咋郡志賀町高浜町カ1-1

076713212970



東山魁夷《海山十題》

第7展示室

第45回公募日創展

2月11日(金・祝)～13日(日) 会期中無休

- ◆ 丹羽俊夫会長が石川県を基盤として創立し、今年四十三回展を迎えます。
- 理事長三宅厚史、副理事長今村文男をはじめ、県内外からの出品を中心に日本画一〇〇点余を展覧。また「国際公募 新院展」に出品された秀作も多数展示致します。
- ◆ 主な出品者
松尾功一朗・伊藤夏子・中村勝代・大窪昭子・牛丸美代子・北川真理子・北出朝之・保科誠・柴田輝枝・村中博文・南好乃
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／丹羽俊夫 金沢市窪1-223

第7展示室

二科会写真部石川支部公募展

2月2日(水)～6日(日) 会期中無休

- 一般社団法人二科会写真部石川支部の令和3年度「石川支部公募展」は、日程の関係もあり越年して令和四年二月に開催します。
- 公募展の写真鑑賞を、より楽しんで戴きたくポリウムアップをはかりました。
- 今回は、第六十八回二科会写真部本展二十六名入選者の内、二十一名の入選作品も楽しみます。また、会員、会友作品は、創造的写真表現で、二科会写真部全国前線に、並ぶ作品を展示致しました。
- 石川の写真文化もデジカメ時代となり誰もが手軽に楽しめます。だからこそ、私たちは、写真表現の新しい可能性を追究し続けています。
- 皆様に、沢山の「高覧」を頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようご案内申し上げます。
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／一般社団法人二科会写真部石川支部・土田貴夫方 076-251-0723

第7展示室

令和3年度 金沢大学学校教育学類 美術教育専修卒業制作展

2月17日(木)～20日(日) 会期中無休

- 絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による令和3年度卒業作品を展示します。これは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。
- 未熟ではございますが是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。なお、在科生の作品も展示しますので、併せてご高覧下さいますようお願いいたします。
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／金沢市角間町 金沢大学
人間社会学域学校教育学類 江藤望
電話：076-264-5582

第8・9展示室

石川独立DO展

2月5日(土)～8日(火) 会期中無休

- 石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、東京・国立新美術館で毎年開催されており、今年で八十八回を数えます。自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。
- 今回はDO展三十回目の節目として、近年会員となった松村・堀・伊藤の三名にスポットライトを当て展示します。
- ◆ 出品予定作家
大部雅子・桑野幾子・進地美穂・田井淳・南雲まき・堀一浩・堀田正人
伊藤裕貴・岩永純・乙部久子・桜井節子・舟橋清・松村裕之・安野弘美
- ◆ 入場無料
- ◆ 連絡先／堀一浩
電話：090-4326-5849

学芸室の人々

令和二年四月、コロナ禍とともに石川県立美術館での仕事がスタートしました。私が思う石川県美のいいところは、月一で展示作品が変わることです。気軽に遠くに行けない今、作品を通してみなさんに新鮮な驚きや感動を提供できるよう、日々の仕事に励んでいます。

ここ数年、おいしいチャイ(スパイスの入ったミルクティー)を探し歩いています。学生時代に行ったインドで飲んで以来、メニューにあると必ず頼んでしまいます。本場インドのチャイは歯が痛くなるほど砂糖がたっぷり。でも、その甘ったるさがたまりません。アジャンタの古びた露店で、少しよごれたグラスで飲んだチャイ。それを超えるものは、まだ見つかりません。

鈴木彩可(普及課学芸員)

第8展示室

風の会展

—第5回記念展—

2月16日(水)～20日(日) 会期中無休

◆入場無料

◆連絡先／江守マリ子 金沢市長町1丁目3-36

電話：076-221-3588

辰村浩子

電話：090-3297-5361

春の風にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラと舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるこちよいい風等を考えている時に、ふう(風)を思い付き、また、全員の気持ちが一致しました。自由で新しい発想による絵画制作を目的として二〇一六年より石川県在住の作家をはじめ、金沢美術工芸大学の学生も含めたメンバーで作品発表の機会を設けています。今回は、賛助出品として大丸七代さんと後出秀茂さんもお出品くださいます。

抽象、具象を問わず、それぞれの視点や表現が個性豊かに現れていることと思います。ぜひこの機会にご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。

第9展示室

2022 一陽会 石川支部展

2月16日(水)～20日(日) 会期中無休

◆入場無料

◆連絡先／一陽会石川支部副支部長 竹田明男

電話：076-248-5989

今秋、六本木の国立新美術館で開催される、第六十八回一陽展に出品予定の支部会員による、絵画・彫刻作品約三十点を展示いたします。

一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉勵し、新時代の美術を推薦とする。先鋭なる未完成こそ推薦し、前人未到新分野の確立に努力するものである」この精神をふまえ、日々研鑽努力してきた渾身作を展示いたします。美術愛好家の方々にご高覧いただいで、ご教示いただければ幸いです。

2月の行事予定

■土曜講座	13時30分～15時	美術館講義室	無料
26日(土)	「近代版画」	普及課長 深山 千尋	
■映像ギャラリー	14時30分～15時30分	美術館ホール	無料
27日(日)	「日本美術史 明治・大正・昭和 日本画の伝統と変革」(25分) 「続 美術のみかた 9 野外彫刻のたのしみ 「パブリック・アートを探る」(23分)		

※2月19日に予定されていた土曜講座は、中止となりました。

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。

最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

〔参加者募集！〕

令和3年度 友の会第19回バスツアー

体験！富山の工芸～高岡銅器と井波彫刻～

開催延期となっていたバスツアーですが、満を持して3月に実施いたします！

今回も感染症対策を考慮し、定員を通常の半分としました。定員を絞ることで可能となった鋳物製作体験を含む、友の会バスツアーの新しい試みをお楽しみください。

開催日／令和4年3月19日(土)

集合時間／午前8時45分

発着／金沢駅西口団体バス乗り場

参加代金／友の会会員 11,000円

会員以外 12,000円

※いずれも体験料2,500円を含みます。

募集定員／20名

◆見学地

【株式会社 能作】

錫製品の製作体験（小皿または箸置き）をします。職人さんと同等の本格的な方法を体験し、鋳物への理解を深めてみませんか。

※90分間立ちっぱなしの作業となります（力の必要な作業もあります）。心配な方は事前にお問い合わせください。一部見学などの対応が可能です。

【モメントムファクトリー-orii】

伝統的な銅製品の着色技術を駆使するモメントムファクトリー-orii。実際に作業が行われている工場内で着色工程を解説と共に見学します。色ががらりと変化する様に驚くこと間違いなし！

【井波・八日町通り町並み散策】

「井波の風」というガイドさんに井波の歴史や伝説についての話を伺い、彫刻の工房が軒を連ねる八日町通りを散策します（緩い坂道を10～15分程度歩きます）。運が良ければ木彫りの様子が見られるかもしれません。

【瑞泉寺】

お寺の由緒や歴史を解説していただきます。山門や本堂には随所に井波彫刻が施され、見ごたえ抜群です。井波彫刻の元祖とされる「獅子の子落とし」も必見です。

◆申込み方法

以下の内容を記載の上、往復はがきもしくはメールにてご応募ください。

※1通のはがき・メールで2名以上の申込みをされる場合は、下記内容を人数分ご記載ください。

①往復はがきの場合

往復はがき裏面…「美術館バスツアー希望」と明記の上、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（ある方のみ）、製作体験で希望する

もの（小皿または箸置き）をご記入ください。

返信はがき表面…返信先（ご自身の住所）をご記入ください。

※消えるボールペンは使用しないでください。返信はがきの裏面には何も記入しないでください。

②メールの場合

件名…美術館バスツアー希望

本文…氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（ある方のみ）、製作体験で希望するもの（小皿または箸置き）

※応募者多数の場合は抽選になります。

◆応募先

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館バスツアー係

ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

応募締切／令和4年2月9日(水)必着

※感染症の状況により、バスツアーの中止、見学地の変更および減少となる場合があります。あらかじめご理解のほどよろしくお願いたします。

※ご自身の体調を考慮の上、お申込みおよびご参加いただきますようお願い申し上げます（当日、医療従事者は同行しません）。



製作体験では箸置き（左）もしくは小皿（右）をつくれます

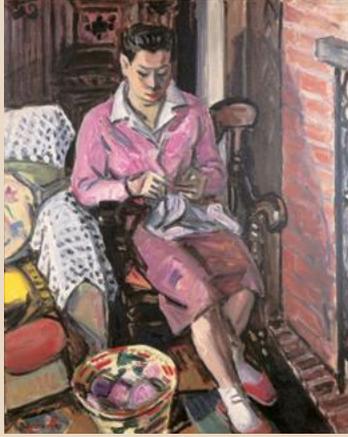


製作体験の様子

《家居》 いえい

縦98.8cm×横79.0cm
昭和36年(1961)

中村研一 なかむらけんいち

明治28年(1895)～昭和42年(1967)
第47回光風会展

室内で椅子に腰かけ編み物をする女性を描きます。画面左から温かな日の光が差し込み、ピンクのセーター、赤いスリッパ、足元の籠の中に入れられた色とりどりの糸玉、ソファア上の黄色のクッションなどに反射する、光と色でまとめられ、太く穏やかな筆致で描かれた本作からは、女性の芯の強さとそれに向けられる温かな愛情が感じられます。女性はその相貌から、中村の妻・富子と考えられます。中村は、愛する妻をモデルにした作品を多く残しました。赤いルージュとマニキュアは富子が好んでつけていたようで、《瀬戸内海》(一九三五年、京都市美術館蔵)、《サイゴンの夢》(一九四七年、福岡県立美

術館蔵)他、多くの作品に描かれる富子の口元と手元は赤く彩られています。初期の中村は、強い明暗対比と沈んだ色調で重厚感のある作品を描きましたが、昭和二十年(一九四五)に東京・小金井に移ってからは、本作のように明るい光と鮮やかな色彩であふれた作品を描くようになります。

中村研一は、福岡県に生まれ、上京して本郷洋画研究所で岡田三郎助(一八六九～一九三九)の指導を受け、東京美術学校西洋画科で学びました。六年間滞仏し、帰国後帝展で特選を受賞して以降、官展を中心に活躍します。石川を代表する洋画家・高光一也(一九〇七～一九八六)の師であり、石川の洋画壇に大きな影響を与えました。晩年は、小松の初代徳田八十吉窯で九谷の絵付けも行い、陶磁作品も残しています。

次回の展覧会

令和4年2月25日(金)
～3月24日(木)
会期中無休前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

橋本雅邦の襖絵

一曹洞宗第二の本山一
加賀大乘寺の文化財

第3・4展示室

優品選
【近現代絵画・彫刻】

第5展示室

優品選
【近現代工芸】

第6展示室

近代版画
【近現代絵画】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

2月7日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

2月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

2月の休館日は
21日(月)～24日(木)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索石川県立美術館だより
第460号(毎月発行)
2022年2月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。